ひと目でわかる
ESD推進事業ガイド

本冊子は平成 28 年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」によって制作されています。

ACCU
Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

はじめに

この冊子を手にとっていただきましたことを心より感謝申し上げます。
本冊子は、ユネスコスクールであるなしに関わらず、持続可能な開発のための教育（ESD）に携わる全ての皆様の一助になればとの思いで作成いたしました。
日本のユネスコスクールは、2005 年から始まった国連 ESD の 10 年（DESD）を きっかけに、ESD の推進拠点として位置づけられ成長してきました。この 10 年の間に加盟校の数が飛躍的に増加したのみならず、それぞれの学校の ESD の実践が広がってきています。2015 年以降も ESD の推進は継続され、その実践は深化の過程にあります。さらに、昨今 ESD はユネスコスクールに限ったものではなく、すべての教育現場でそして地域でその実践が求められてきております。
一方で、学校現場からユネスコスクール事務局には様々な質問やご意見をいただきます。例えば、「ESD 担当者になったけれど、何をしたらよいでしょうか？」「担当者が異動になってしまったため、ESD 活動が続けられなくなってしまった」「上司から言われてやっているが、負担で･･･」「ユネスコスクールになったけど、どんなメリットがありますか？」など、先生方の戸惑った顔が目に浮かびます。
本冊子は、ESD の活動の先にあるもの、すなわち、ESD 活動が「活動」で終わってしまわないためにどうしていけばよいのか、そのような視点からユネスコスクール事務局として支援させていただいている事業をご紹介させていただきます。少しでも本冊子がお役に立ち、そして先生方の「戸惑った顔」が、「笑顔」に変わるきっかけとなりましたら、ユネスコスクール事務局としては大変嬉しく思います。
最後に、ユネスコスクール事務局では皆さまのご意見やご助言をいつでもお待ちしております。皆さまと共に持続可能な未来へ向けての変化の担い手でありたいと考えています。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
ユネスコスクール事務局

目次

02…………はじめに
03…………目次
04 - 05……ESD に参加しよう―あなたにぴったりなプロジェクトは？―
06…………ユネスコスクール事務局
07…………ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）事務局
08…………ESD 重点校形成事業～輝け！サステイナブルスクール～
09…………気候変動をテーマにしたホールスクールアプローチ実践プロジェクト
10…………ESD Food プロジェクト
11…………ユネスコスクール全国ネットワーク
12…………「ESD 推進の手引」を活用した研修事業
13………… UNESCO、そして ACCU の教育協力分野での歩み
14 - 15……ユネスコ・アジア文化センターについて
16 - 17……ESD 推進のための関連資料

用語一覧

ACCU…………………………公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
ASPnet ……………………… ユネスコスクール
ASPUnivNet……………… ユネスコスクール支援大学間ネットワーク
DESD……………………… 国連持続可能な開発のための教育の 10 年
ESD…………………………持続可能な開発のための教育
GAP…………………………グローバル・アクション・プログラム

ESD に参加しよう

あなたにぴったりなプロジェクトは？

START!

ESDに対して十分な理解がある。
A. Yes
B. No

ユネスコスクールに加盟している。
A. Yes
B. No

ESDに関する
A. 具体的な事例を知りたい。
B. 概念から幅広く知りたい。

ユネスコスクールに実際に加盟したいと思っている。
A. Yes
B. No

どちらの事例を知りたい？
A. 国内の事例について知りたい。
B. 海外にも広がる事例について知りたい。

実際に
A. 自分で参加して学びたい。
B. 専門家を招いて現状に則した学びを得たい。

ユネスコスクール事務局
6ページへ

ESD重点校形成事業
8ページへ

ユネスコスクール全国ネットワーク
11ページへ

気候変動をテーマにしたホールスクールアプローチ実践プロジェクト
9ページへ

ESD Food プロジェクト
10ページへ

「ESD推進の手引」を活用した研修事業
12ページへ

ASPUnivNet事務局
7ページへ

A. →
B. ⇢

ユネスコスクール事務局

―ユネスコスクール加盟を支援し、ESD 推進拠点としてのネットワークを広げるために―

ACCU はユネスコスクール事務局として、2008 年から約 10 年間ユネスコスクール加盟の支援をしてきました。10 年前は 20 校であったユネスコスクールも、ユネスコ本部へ加盟申請中の学校を含めて 2016 年 10 月時点で 1,044 校と、劇的に増えました。この数は世界の中でも最多を誇り、かつ 182 か国に存在する全ユネスコスクール加盟校の約 1 割を占めています。「国連 ESD の 10 年（DESD）」が終了し、現在は、ユネスコスクールの加盟申請を推進するだけでなく、ユネスコスクール各校が継続して質の高い活動に取り組めるような支援を ESD 関係者と協力しながら行っています。

事務局としての具体的な活動は以下のとおりです。

・ユネスコスクール加盟申請のための相談窓口と申請手続きのための支援
・ユネスコスクール加盟後の活動支援（研修会の実施等）
・ユネスコスクール公式ウェブサイトの運営・管理
・国内外のユネスコスクール交流のためのマッチング
・ユネスコスクールに関する総合相談窓口
・学校現場における ESD 推進のための支援

■ユネスコスクールに関するお問い合わせ

Email: webmaster@accu.or.jp
電話番号：03-3269-4559
Fax：03-3269-4510

ユネスコスクール公式ウェブサイト　http://www.unesco-school.mext.go.jp/

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）事務局

―高等教育機関によるユネスコスクールへの円滑な支援を実施するために―

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）は、2008 年 12 月に設立されて以来、約 10 年間ユネスコスクール加盟のための申請書作成に係るサポートや、加盟後の研修会実施、ユネスコスクールや ESD に関する調査・分析などを継続的に行ってきました。現在では、20 大学（2017 年 1 月時点）が地域に根差した ESD 活動の支援を継続的に行っています。

このような ASPUnivNet の活動が円滑に進むよう、ACCU は 2015 年から事務局としての機能を担っています。高等教育機関と各地のユネスコスクールの連携が進み、協働で ESD の発展を目指していけるようなサポートを引き続き行っていきます。

事務局としての具体的なサポート内容は以下のとおりです。

・加盟大学間、加盟大学と文部科学省間の連絡調整
・ASPUnivNet 情報共有のための連絡会議開催（年 2 回）
・ASPUnivNet 活動周知のためのパンフレット作成（日本語・英語）
・ASPUnivNet ウェブサイトの運営・管理
・ASPUnivNet が全体で取り組むプロジェクトへの支援
・ユネスコスクール年次アンケート作成、実施、分析への協力

■ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）

北海道教育大学釧路校
東北大学大学院環境科学研究科
宮城教育大学
玉川大学教育学部
東海大学教養学部
金沢大学
静岡大学教育学部
岐阜大学
愛知教育大学
中部大学
三重大学
京都外国語大学
大阪府立大学
奈良教育大学
岡山大学
広島大学大学院教育学研究科
福山市立大学
広島市立大学国際学部
鳴門教育大学
福岡教育大学

ESD 重点校形成事業 ～輝け！サスティナブルスクール～

―学校の個性を生かした ESD の取組みを応援し、活動を広げるために―

2016 年 9 月、全国公募を経て、自校で ESD をさらに深め、その活動を広げていくことに積極的、かつ ESD に魅力を感じその可能性を共に育んでいくことのできる 24 校が、ESD 重点校（以下、サステイナブルスクール）として選ばれました。サステイナブルスクールは、教育を通じて持続可能な未来、社会を構築することを目指して、実践的な取組みを行っていきます。

これまでに、各校の顔合わせと活動内容の共有のため、校長・担当教員向けの研修会（2016 年 9 月）や活動共有会（2017 年 1 月）を開催し、学校全体で ESD に取り組み、学校同士が学び合うことでそれぞれの魅力をより輝かせていくという方向性を共有しました。

事業開始後、早速サステイナブルスクール間で学校訪問をしたり、外部有識者を講師に招いて校内研修会を行ったりするなど、各校の取組みはますます活性化しています。

ACCU はこれからもサステイナブルスクール各校の独自の取組みにスポットライトを当てていくとともに、サステイナブルスクール各校の活動がさらに輝く、わくわくするような仕掛けをしていきます。近い将来、そんな活動が日本を飛び出し世界へと広がっていくよう、ACCU も共に成長しながら、活動を発信していきます。

気候変動をテーマにした ホールスクールアプローチ実践プロジェクト

―ホールスクールアプローチを軸に 地球規模の課題を解決していくために―

2014 年 11 月に採択された「あいち・なごや宣言 *」に基づき、ESD グローバル・アクション・プログラム（GAP）** が始動。ACCU もユネスコのキーパートナーとして「機関包括型アプローチ」の分野で活動を展開しています。

2016 年 9 月からは、日本の 10 校のユネスコスクールが気候変動をテーマとしたフラッグシッププロジェクトに参加しています。11 月には 2 名の教員と 1 名の ACCU 職員が、セネガル共和国で開催された国際ファシリテーター研修において、世界 12 か国から集まった教職員および各国ナショナル･コーディネーターと共に、ホールスクールアプローチと気候変動に関する学びを深めました。2017 年 1 月にはプロジェクト参加校を対象とした国内研修を実施し、いよいよ各学校による取組みが始動します。

今後、2018 年 3 月のプロジェクト完了まで、「ホールスクールアプローチ」のキーワードの下、参加校がそれぞれの特色を生かしたアクションプランを策定し、気候変動という地球規模の課題へ向けた学校・地域レベルの取組みを実践していきます。また、プロジェクト参加校間の交流や学習会などでの学びの機会を通じて、学校そのものの在り方が変容していくことを目指しています。

Cours Sainte Marie de Hann学校視察にて（生徒が発案したグリーンウォール）

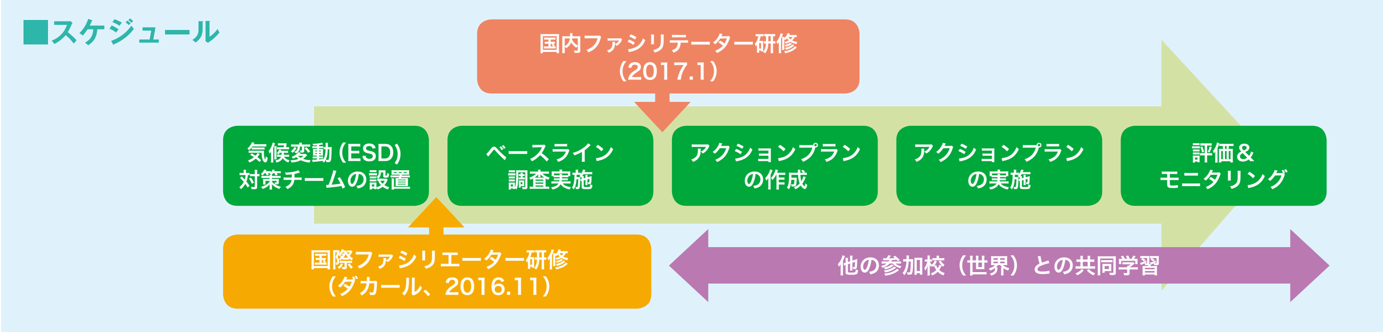
セネガル共和国ダカールで開催された国際ファシリテーター研修にて

UNESCO Global Action Programme on Education for Sustainable Development

4 質の高い教育をみんなに

13 気候変動に具体的な対策を

17 パートナーシップで目標を達成しよう



* 「ESD推進のための関連資料」（17ページ参照）

** 「ESD推進のための関連資料」（17ページ参照）

ESD Food プロジェクト

―国際協働学習を通じて 多様な価値観を知り問題解決力をはぐくむために―

持続可能な社会をつくる「変化の担い手」となる児童生徒の育成を目指し、ACCU は 2010 年から国際協働学習プロジェクトを企画・運営してきました。テーマや相手国の変遷を経て、現在は「ESD Food プロジェクト」を展開しています。

2016 年度はタイ、インド、インドネシアの NGO や政府機関の協力を得て実施しています。日本からの８校（ユネスコスクール加盟校ならびに加盟検討校）を含む 28 校が参加し、「『食』に焦点を当てた持続可能なライフスタイル」をテーマに、複数のグループに分かれて国際協働学習を進めています。

６月にタイで実施したコーディネーター研修を皮切りに各国レベルでの活動を開始し、11 月には各国からコーディネーターと参加校教員を招へいして、東京で国際ワークショップを開催しました。各国の進捗状況を共有し、具体的な活動計画や目指すゴールを確認したことで、その後のプロジェクトを円滑に進めることができました。

プロジェクトを通じて、児童生徒たちは、様々な地球規模課題が自分たちのコミュニティや国で「食」にどのような影響を及ぼしているかを調査し、各国の状況を共有した上で、問題解決のための議論を深めました。

ACCU はこれまで培ってきた海外とのつながりを軸として、これからも継続的に国際協働学習の場を提供し、国を超えた学び合いの支援を行っていきます。

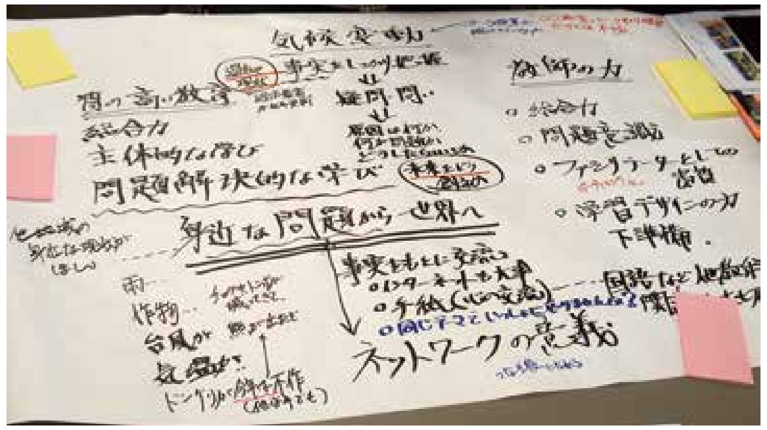
ユネスコスクール全国ネットワーク

―全国のユネスコスクールが継続的に ネットワークとしてつながっていくために―

「私たちは、互いに学びあい、活動の質を高めていくために
自発的に組織されるユネスコスクール同士の全国ネットワークをつくります。
そして、ユネスコスクール間の交流や協働を推進し
情報交換・活用の仕組みを充実させます。」

上記は 2014 年 11 月に採択された ESD 推進のためのユネスコスクール宣言（ユネスコスクール岡山宣言）＊に記載のある誓いの一文です。これを受け、さらに ESD が日本の教育を変えていく原動力となるために、加盟校の先生有志から加盟校主体のユネスコスクール全国ネットワークの立ち上げについて提案がありました。ネットワークを構築・強化し、ESD をホールスクールアプローチで推進することや、ESD を通して育みたい児童生徒の能力・態度、教え方、学び方、評価方法など、常日頃加盟校の先生が疑問に感じていることを、加盟校の先生たち同士で気軽に相談・協議できる関係性を築くことが目指されています。

質の高い教育実践がユネスコスクール加盟校で進むように、加盟校を主体に、加盟校をサポートする教育委員会、大学、NPO 等と連携を取りながら、枠を超えて共に学び合うネットワークが多くの地域で構築されつつあります。また、ユネスコスクール事務局を担う ACCU ではこのような自発的な活動を応援すべく、関係者と共に話し合いのための場作りを積極的に行っています。



＊「ESD推進のための関連資料」（17ページ参照）

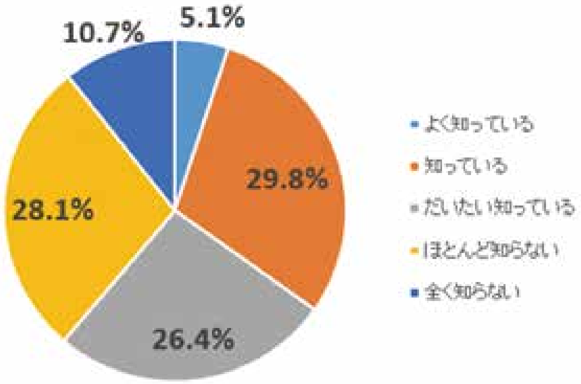
「ESD 推進の手引」を活用した研修事業

―ESD を知りたい、
ESD に関する研修会を開催したい人のために―

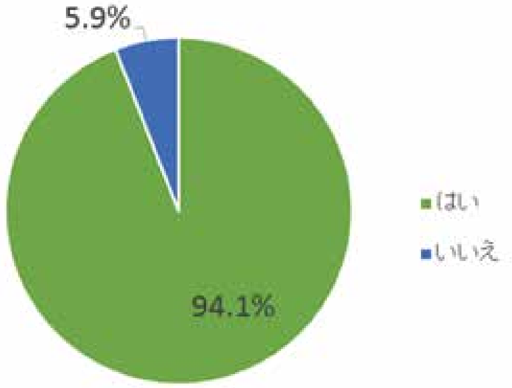
当センターの職員も有識者として作成に携わった「ESD 推進の手引」（以下、ESD 手引）が、2016 年 3 月に文部科学省および日本ユネスコ国内委員会より発行されました。この手引を使用し、ESD を周知し拡大していくことを目的とした研修会を全国で開催しています。2016 年度は、文部科学省、各都道府県・市町村教育委員会と連携し､ASPUnivNet 関係者をはじめとした外部有識者を講師として招いて、東京（7 月)、新潟（8 月)、静岡（10 月）、北海道東地区（11 月）、福岡（1 月）の全国 5 か所にて教育委員会や学校管理職を主な対象者とした研修会を実施しました。研修会は ESD をわかりやすく解説するとともに、手引の使用方法も実践的に学ぶことができるような構成となっています。研修実施にあたり、参加者に対して ESD 手引や研修会に関するアンケートを実施しています。ESD 手引が実践者にとってよりわかりやすく、使いやすくなるように、アンケート結果は、ESD 手引発行元の文部科学省および日本ユネスコ国内員会へ共有されます。

■参加者アンケートより

ESD を知っていますか？（n=169）



研修会は役立ちましたか？（n=135）



UNESCO、そしてACCUの教育協力分野での歩み

ACCUはユネスコの方針に沿って設立され、活動を進めてきました。平和で持続可能な社会のための教育の実現のために、これからもユネスコとともに歩んでいきます。

UNESCO / ACCU

- 2017　GAP中間レビュー
- 2016　GAPキーパートナー・ミーティング ／ 気候変動をテーマにしたホールスクールアプローチ実践プロジェクトの開始
- 2015　「世界教育フォーラム」（韓国）の開催、持続可能な開発目標（SDGs）の施行（2015-2030）、GAPの開始（2015-2020）
- 2014　国連ESDの10年最終年会合（名古屋）、ユネスコスクール世界大会（岡山）、DESD後継枠組みグローバル・アクション・プログラム（GAP）の採択 ／ GAPの優先行動分野２のキーパートナーとなる若者主体のコミュニティ開発事業開始
- 2012　EFA-ESD専門家会合／ COE専門家会議
- 2011　アジア太平洋教育協力フォーラム（東京）
- 2010　ユネスコESD推進プログラム ESD-Rice プロジェクト開始
- 2009　ESD世界会議（ドイツ・ボン） ／ アジア太平洋ESD教育者フォーラム（東京）
- 2008　ユネスコスクール支援事業開始
- 2005　「国連持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」の施行（2005-2014） ／ ESD事業の開始 ～ COE形成プログラム／イノベーション創成プログラム～
- 2000　世界教育フォーラム（セネガル・ダカール）開催 ミレニアム開発目標（MDGs）が策定
- 1999　「識字教材制作ハンドブック」の制作
- 1998　識字データベースをインターネット上で公開開始
- 1997　環境教育教材（PLANET）の制作開始
- 1995　ユネスコ50周年「国際寛容年」
- 1994　女性のための識字教育センターの開始
- 1992　「ミナの笑顔」の制作
- 1990　万人のための教育（EFA）世界教育会議（タイ、ジョムティエン）、「国際識字年」 ／ 国際識字年記念絵本の制作
- 1987　「アジア太平洋地域の万人のための教育計画: APPEAL」の開始
- 1983　農村識字専門家セミナーの開始
- 1981　識字協力事業を開始
- 1971　ACCU設立
- 1965　世界文部大臣会議（イラン・テヘラン）
- 1960　アジア地域初等教育開発長期計画の策定（「カラチ・プラン」）
- 1953　ユネスコスクールプログラム（ASPnet）開始
- 1951　日本のユネスコ加盟
- 1945　ユネスコ憲章採択

【ユネスコ憲章】
戦争は人の心の中で生れるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない
"Building Peace in the minds of men and women"

ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）について

人をつなぎ、知をはぐくみ、未来をひらく
ACCU は日本と世界の人々と共に学びの輪を広げます

ACCU はユネスコの基本方針に沿ってアジア太平洋地域と日本国内で教育と文化の分野で活動しています。2015 年からは、ユネスコが実施する GAP のキーパートナーとして各方面と連携したプロジェクトの更なる発展に寄与しています。
ACCU は主に、「教育協力事業」「人物交流事業」「模擬国連推進事業」「文化遺産保護協力事業（奈良）」の 4 つの柱のもとさまざまなプログラムを行っています。

教育協力事業

文部科学省委託事業日本／ユネスコパートナーシップ事業に係る、ユネスコスクールや ESD 推進に関連する主な事業は本冊子に掲載のとおりです。ここでは、その他の事業を紹介します。

若者主体の持続可能な コミュニティ開発プロジェクト

アジア地域の若者（15 ～ 35 歳）が、みずから持続可能な未来に向けてコミュニティ開発に取り組むプロジェクトです。ACCU はアジア地域の NGO と連携し、2015 年度に実施したパキスタンとバングラディシュに加え、2016 年度はインド、インドネシア、フィリピンでも活動を深めています。現在、プロジェクトのこれまでの実践や各団体での知見を踏まえた若者リーダー用ガイドと、持続可能なコミュニティを創生するための 5 ステップを開発中です。5 か国と連携し、2017 年度に完成、発行を目指しています。

SMILE Asia プロジェクト

SMILE Asia プロジェクトは ACCU がアジアで推進する母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトです。これまでにアジアの 7 か国で展開し、現在はカンボジアで実施しています。女性の関心の高い母子保健をテーマにし、家庭でも子どもと一緒に活用できる教材を提供することで、クラスを卒業した後も日常生活で、識字能力を使い続ける環境を現地の団体と一緒に作っています。
2016 年度はプノンペン市より 45 ｋｍほど離れた場所に位置するコンポンスプー州の 5 つの村において、75 名の成人学習者（うち 74 名が女性）を対象に活動を実施。現地をモニタリング訪問したり、参加者からプロジェクトに関するヒアリングをしたりするなどし、現地のニーズをより把握できるよう努めました。
このプロジェクトはチャリティーコンサートを開催して支援くださる凸版印刷株式会社はじめ、皆さまからのご寄附により行っています。

アフガニスタン識字事業

JICA（独立行政法人国際協力機構）が実施している「アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトフェーズ 2」に職員を派遣し、アフガニスタン教育省識字局とともに、同国識字局のモニタリング・技術支援能力の強化に関わる活動を行っています。治安状況の問題により、アフガニスタンへの日本人の渡航が難しいため、７月～８月にかけてインドへ日本人職員を派遣し、アフガニスタンから招へいした識字局職員と会合を持ち、制定したモニタリング・評価制度の機能状況を確認し、今後の活動計画を策定しました。

人物交流事業

教職員・生徒間交流プログラム

日本と海外の教職員や生徒間の相互理解と友好の促進を目指して、初等中等教職員等交流プログラムを実施しています。参加者がお互いの国の様々な地域、学校や教育・文化施設、一般家庭を訪問し、教職員や児童生徒との交流を深め、訪問国の教育制度や文化についての理解を深めます。

教職員招へいプログラム対象国：中国、韓国、タイ、インド
教職員派遣プログラム対象国　：中国、韓国
高校生招へいプログラム対象国：タイ

模擬国連推進事業

高校模擬国連

支援企業からのご寄附を得て、次世代の国際人 / グローバルなリーダーを育成することを目的にグローバル・クラスルーム日本委員会と協力し、高校模擬国連事業を実施しています。2012 年度から高校模擬国連事務局として全日本大会を共催するほか、同大会での優秀チームを国連本部で開催される国際大会へ派遣しています。

文化遺産保護協力事業

文化遺産の調査・研究の中心である奈良に文化遺産保護協力事務所（ACCU 奈良事務所）を設置し、国際機関と連携して文化遺産保護や文化財の保存修復を担う人材育成のための研修や国際会議を開催しています。また、県内の高校への出前授業や一般市民向けのセミナーも行っています。

ACCU に関する広報物

ACCU ニュース
年 3 回発行されている ACCU の機関紙です。ACCU が携わる ESD 関連事業はもちろん、国際教育協力や人物交流などに関する様々な事業情報を発信しています。
http://www.accu.or.jp/jp/accunews/2016.html

ACCU ホームページはこちら！
http://www.accu.or.jp/jp/index.html
Facebook へのいいね！もお願いします。
https://www.facebook.com/accu.or.jp/?fref=ts

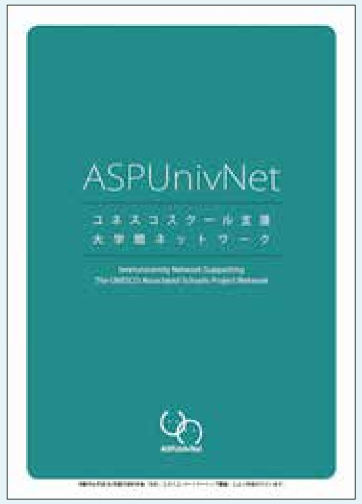
■ ACCU の提供する資料

「協働学習プロジェクトをはじめようー ESD Food プロジェクトの実践から」(2016)(言語：日・英)

国際協働学習プロジェクト「ESD Food プロジェクト」の取り組みをまとめたものです。このプロジェクトでは、「食」をテーマに学校が位置する地域コミュニティや国、世界を持続可能な社会とするために、児童生徒の皆さんが「変化の担い手」となり活動しました。日本から 7 校、インドから 5 校のユネスコスクール加盟校および加盟検討校が参加し、2015 年 9 月から 2016 年 1 月末まで活動が行われました。

「これからのユネスコスクールを考えようー Whole School Approach」(2016)(言語:日・英)

2015 年 12 月に開催されたワークショップ「これからのユネスコスクールを考えよう」の様子をまとめました。このワークショップは二部構成で行われ、第一部ではイギリスから ESD およびサステイナブル・スクールの専門家であるアン・フィンレイソンさんからホールスクールアプローチについて学び、第二部では企画の段階から一緒に準備をしてくださった加盟校の先生から「国内のネットワークを立ち上げ、互いに学び合おう」ということが提案され、ネットワークを介して、各々が何を行いたいかについて意見交換をしました。



ASPUnivNet パンフレット(2017)(言語：日・英)

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)に関する総合的な情報が載っています。ASPUnivNet が提供する支援内容の他に、各加盟大学独自の活動についても情報が満載です。
http://www.unesco-school.mext.go.jp/ASPUnivNet/

「ユネスコスクールの今ー広がり つながる ESD 推進拠点」(2015)(言語：日・英)

DESD が終了し、GAP が正式にスタートしたタイミングで、日本のユネスコスクールが取り組んできた ESD 実践の特色を探り、これまでの成果を整理するとともに、課題についても明らかにしつつ ESD 実践の質を高めていくための参考となるように作成されました。これまで長くユネスコスクールの活動支援を行ってきた専門家の論考、および ESD を実際に進める立場から学校長・教師による論考を掲載しています。

P16 の 4 点はユネスコスクール公式ウェブサイト「教材ルーム」よりダウンロード可能です。
http://www.unesco-school.mext.go.jp/materials.edu/

「ユネスコスクール ESD 優良実践事例集」(2014)(言語：日・英)

DESD の活動を総括するとともに、2015 年以降も国内外において ESD を更に推進する契機とする目的で開催される「ESD に関するユネスコ世界会議」(名古屋市、2014 年 11 月 10 日～ 12 日)に先立って開催される各種ステークホルダー会合の一つである「ユネスコスクール世界大会」(岡山市、2014 年 11 月 6 日～8 日)を記念して発行されました。国内 84 校のユネスコスクールにおける ESD の優良実践事例を紹介しています。

■文部科学省の提供する資料

「ESD 推進の手引」(2016)(言語：日・英)

ESD を学校現場に普及していく立場にある教育委員会および教育センターで ESD に関する研修を企画・実施する担当指導主事の方々や学校管理職の先生方等を主な対象とした手引書です。これまで ESD について知らない、または指導方法がわからなかった先生方に対して、ESD の大切さや、学校での ESD の具体的な実践方法等を伝えることを目的にしています。
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2016/09/14/1369326_01.pdf

■ ESD 推進に係る世界と日本の枠組み

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)

2016 年～ 2030 年の間に世界の目指す目標として 2015 年に国連本部にて策定されました。17 の目標と 169 のターゲットから成っています。
http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/
(国際連合 HP、英語)
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/ (国際連合広報センター、日本語)

UNESCO Global Action Programme on
Education for Sustainable Development

グローバル・アクション・プログラム (GAP)

「国連 ESD の 10 年(DESD)」の後継枠組みとして 2014 年に整備されました。5 つの優先行動分野が設置され、2015 年～ 2020 年が実施年となっています。優先行動分野は①政策的支援(ESD に対する政策的支援)、②機関包括型アプローチ(ESD への包括的取組み)、③教育者(ESD を実践する教育者の育成)、④ユース(ESD への若者の参加の支援)、地域コミュニティ(ESD への地域コミュニティの参加の促進)で、ACCU は②の機関包括型アプローチにおける GAP のキーパートナーです。
http://www.mext.go.jp/unesco/004/1345280.htm (文部科学省 HP)

あいち・なごや宣言

2014 年 11 月に開催された「閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合」で各ステイクホルダーがこれからも ESD の取組みを強化して、行動を起こしていくことが示されています。
http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya_Declaration_ja.pdf

ESD 推進のためのユネスコスクール宣言(岡山宣言)

2014 年 11 月に開催された第 6 回ユネスコスクール全国大会にて採択されました。ユネスコスクール関係者が GAP 推進下で ESD を推進することや、更なる教育の質の向上を目指すことが示されています。
http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya_Declaration_school_ja.pdf

ひと目でわかる　ESD推進事業ガイド

発行日　2017年3月1日
発行　公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
162-8484東京都新宿区袋町6　日本出版会館
TEL : 03-3269-4559　FAX : 03-3269-4510
URL : https://www.accu.or.jp/jp/index.html
Email : webmaster@accu.or.jp
翻訳・デザイン・印刷・製本　株式会社メディア総合研究所

©ユネスコ・アジア文化センター2017
Printed in Japan
禁無断転載・複製